

2010年9月30日

薬用植物の人工栽培の研究開発をスタート
～ レアプラントの人工栽培に挑戦 ～

三菱樹脂株式会社

三菱樹脂株式会社(本社:東京都中央区 社長:吉田 宏)は、株式会社グリーンイノベーション(本社:東京都中央区 社長:原 泉)と共同で、薬用植物『甘草(カンゾウ)』の人工栽培技術の研究開発を、10月より開始いたします。

薬用植物(薬草)は、甘草、シャクヤク、ウコン、桂皮などを中心に、主として、漢方薬や食品、健康食品、化粧品などの幅広い分野で薬効成分として利用されています。一方で、甘草などの薬草の生産国では、野生品の乱獲が問題となり、薬用植物資源保護の観点から採取制限が実施される動きがあるため、消費国においては薬草の安定確保が大きな課題となってきております。中でも、漢方薬の約7割に使用されている甘草は、その殆どが野生品であり、かつ、大部分を海外からの輸入に頼っていることから、国内での栽培が急務となってきておりますが、原産地との気候風土の違いや、栽培技術が未だ確立されていないことから、国内での人工栽培は難しいとされています。

また、甘草の世界的な需給は、欧米での需要が旺盛なことに加え、最大の生産国である中国の国内需要も、近年の急速な経済発展に伴い大きく増大していることから、需給は逼迫の状態が続いており、レアアースやレアメタル同様に、今後、国際的な争奪戦につながる可能性を有しています。このレアプラントとも言うべき甘草を安定的に供給するため、当社は、昨年12月よりグリーンイノベーション社と共同で予備調査を進めて参りましたが、その結果を踏まえて、本年10月より2年間、同社と共同での研究開発を行います。当社グループのMKVドリーム社などが有する高度な栽培技術や各種農業資材の開発力と、グリーンイノベーション社の薬草事業における知見と人的ネットワークや種子の調達力等々とのシナジーにより、開発のスピードを速め、早期の栽培技術確立を目指して取り組んでまいります。なお、栽培技術の確立による甘草の安定供給に加え、その他の薬草の栽培などの事業化に向けた検討も開始する予定です。

当社は、農業ハウス向けフィルムなどの農業資材に加え、水耕栽培事業の買収による太陽光利用型植物工場ビジネスへの参入や生分解性マルチフィルムの発売など、農業資材事業のビジネスモデルの変革と新製品の積極的な開発によって事業の拡大を推進しており、今般の取り組みもその一環です。また、この取り組みは、三菱ケミカルホールディングスが目指す、「KAITEKI」(“Sustainability”“Health”“Comfort”)を実現するものとして大きな可能性を有していると考えております。

<ご参考:株式会社グリーンイノベーションの概要>

本 社 :東京都中央区日本橋本町2-6-1

代表者 :代表取締役社長 原 泉

資本金 :68百万円

主な事業:薬用植物関連事業



【 写真 : 甘草 】

<本件に関する報道関係のお問合せ先>
三菱樹脂株式会社 総務部広報室
TEL:03-3279-3800